子どもの主体性を大切にしたチーム保育

創立三五周年を迎えた昨年、新園舎が完成しました。長年行ってきた異年齢保育を〝より実践しやすい環境に〟と考えて、一階（ゼロ、一歳児、一時保育）、二階（二～五歳児）とも極力壁を作らず、ゆったりとしたオープンな保育室にしました。もちろん、ただ広いだけでは子どもは落ち着きません。じっくりとあそびに集中できるようにロールカーテンや背の低い棚を利用し、制作やままごと、絵本、伝承あそびなど、発達に必要なさまざまな活動を考えてコーナーを設けています。こうした環境は、活動に応じてコーナーを広げたり、新しいコーナーの設置が柔軟にできるのも魅力のひとつです。

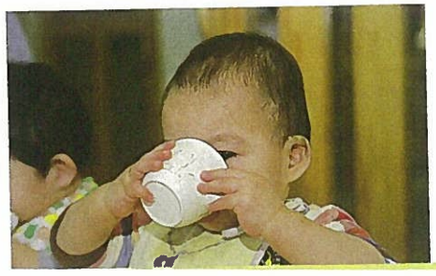
「めざしているのは、自分で考え、自分で選び、自分から行動できる子ども」と、川口司園長。子どもたちをしっかりみて、子どもが自発的にかかわれる環境をつくる。長坂保育園は子どもたちの主体性を大切にした保育を、チーム保育でていねいに行っています。

▲お茶碗は手で持ち、きちんと箸の使える子どもに育てようと、食器も一品一皿にこだわっています。献立にはせんべい汁などの郷土食も多く、また保護者の手作りを味わえるようにと週一回、おにぎり持参の日もあります。クッキングや畑活動にも積極的に取り組んでいます。そうした食育を支えているのは調理員。子どもの指導はもちろん、給食のときもランチルームで当番の子どもと一緒に配ぜんをしたり、献立に関するクイズなども毎日行っています。給食は11時半頃から、あそびに区切りをつけた子どもたちが集まり、テーブルに6人がそろったところから始まります。急かすことなく、ゆっくり楽しく「いただきます！」

▲3、4、5歳児が毎朝3人で挨拶当番を行います。たすきをつけたお当番さんは、登園してくる友だちや保護者に「おはようございます！」と元気いっぱい。その声を聞くと、ぐずっていた子もぴたっと泣きやみ、保護者の顔にも笑みが浮かびます。いつしか保護者からも「おはようございます！」の元気な声が聞かれるようになりました

▲雪あそびに出かけよう！ ばっちり防寒をして、大小のソリを持って、「根城の広場」へ出発。根城は日本100名城にも指定されている史跡ですが、子どもたちのめあては、そのまわりの広場。夏はここで虫探しに夢中になり、冬はソリあそびに興じます。この日は雪が少なかったのですが、子どもたちは勢いよくすべっていました

▶コミュニケーション能力には国語力が大きく影響します。乳幼児期はとくに「聞く」「話す」力を育むことが大事。長坂保育園ではゼロ歳の赤ちゃんにも保育士が本当によく話しかけています。そうした積み重ねが、確かな力となっていきます



取材協力／長坂保育園（私立）
〒039-1166
青森県八戸市根城8-8-34
TEL: 0178-45-8126　定員100名
撮影／島田　聡　文／編集部

一人ひとりの“好きなこと”をみつけよう。自分で考え、選び、行動できる子どもを育もう！

登園した子どもたちは、保育室に下げてある三枚のホワイトボードを眺めて、自分の顔写真がはめ込んであるマグネットをそのなかの一枚にぱちんとはりつけます。ホワイトボードには、「おにのさんぽう（三方）づくり」「ゆきあそび（さんぽ）」「えんてい」の文字とイラストが。

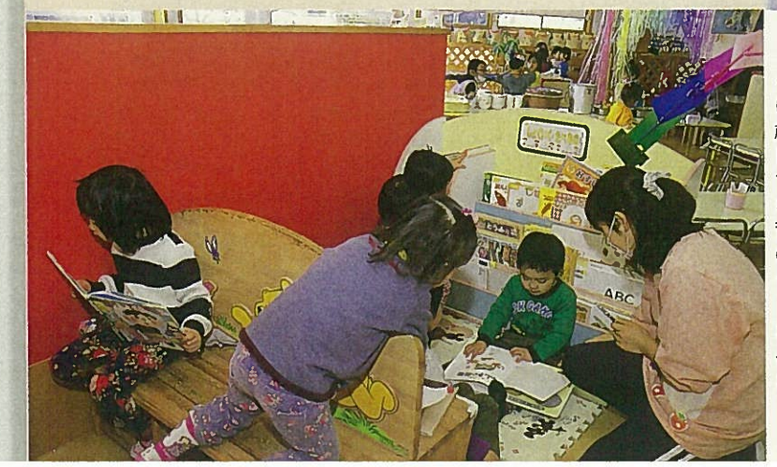
「この三つが今日の保育メニューです。三歳から五歳までの子どもたちは、あそびたいところに自分のマグネットをはっていきます」と、川口園長。日中の活動を子ども自身が選択するというのも、子どもたちが自発的に、意欲的に、主体的に活動できる保育環境のひとつです。

保護者のなかには、「子どもに選ばせたら好きなことしかしないのではないか？」と、心配されるかたもいますが、あまり同じ活動が続いている場合は、保育士が声をかけて別の活動にも誘います。また、発達に応じた制作や楽器の練習などの時間は別に設けており、そうした活動は一斉保育として年齢別に行っています。「ある程度の課題の設定はやはり必要です。でも一番大事なのは好きなことをみつけて、それを伸ばしていくこと」。川口園長はそう述べたあとで、ことばをつなぎます。

「子どもは自分が何を好きで、どんなことが得意なのかまだよくわかっていない。だからこそ、いろいろな活動や体験ができるよう準備して、子どもたちに〝やってみたい！〟〝できた！〟と思わせていく〝保育の力〟が必要です」。

乳児もまた、一人ひとりの生活リズムを大切にしていくと、発達に応じた保育がしぜんであることから、ゆるやかな異年齢保育を行っています。

異年齢保育は、年下の子は刺激を受けて伸びるけれど、年上の子はね……、という保護者も、できる子、できない子に分かれてしまう。でも異年齢になると誰でも必ずできることがあります」。そうした体験が自信となり、子どもを成長させるのだと川口園長は笑顔でうなずきます。



◀2歳から5歳児までが生活をする2階の保育室は、ドアや壁のない広いワンフロア。ただし、2歳児は幼児クラスへの大事な移行の時期として、日中の活動はクラス単独での保育を行っています。それでもすぐ近くにいる年長児を見て、感じながら過ごすことで、翌年はスムーズに異年齢保育へと移行できるといいます。また、3歳児以上の子どもたちが過ごす広い保育室は、入り口からランチルーム、あそび、お昼寝という空間設定をして、あそびのスペースにはたくさんのコーナーが設けられています。はさみやクレヨンなどの道具もコーナーに設置。“みんなのもの”という意識が芽生え、片づけが上手になり、道具も大切に扱うようになったといいます